

2018年度

関西学院大学 ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室

Volunteer Activity Office "Human Service" Support Office



2018年度 関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室 活動報告

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

2018 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター

ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

■ はじめに

ボランティア活動支援センター長 挨拶	2
富田 宏治	
ヒューマン・サービス支援室長 挨拶	3
関 嘉寛	
ボランティアコーディネーター 挨拶	4
成安 有希	
ボランティアコーディネーター 挨拶	5
岡 秀和	
2018年度学生コーディネーター代表 挨拶	6
森本 敦史	

■ ヒューマン・サービス支援室

1. ヒューマン・サービス支援室とは	8
学内における位置づけ	
2018年度の取り組み	
2019年度の計画	
2. ボランティアコーディネート	12
支援室の利用・活動状況（西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、西宮聖和キャンパス）	
外部団体からの情報提供数	
3. 災害支援活動	15
2018年度の災害支援活動について	
災害支援活動スケジュール	
[熊本地震支援]	
くまモンへの活動報告	
第9回 熊本地震現地ボランティア活動	
第8回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組製作	
第10回 熊本地震現地ボランティア活動	
熊本地震現地ボランティアOBOG会	
第11回 熊本地震現地ボランティア活動	
第10回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ボランティア week ポスター展示	
第11回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組製作	
第12回 熊本地震現地ボランティア活動	
2018年度 熊本地震現地ボランティア参加者数	
現地ボランティア参加者感想	
[西日本豪雨水害支援]	
第1回 西日本豪雨水害ボランティアバス	
第2回 西日本豪雨水害ボランティアバス	
レモネード大作戦	
第4回 西日本豪雨水害ボランティアバス	
西日本豪雨水害ボランティアバス活動報告 & レモネード大作戦	
西日本豪雨水害ボランティアバス参加者数	
ボランティアバス参加者感想	

■ 学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは	30
年間活動スケジュール	
2018 年度の活動方針、目標	
2. 学生コーディネーターの活動	32
春ボラ	
ボランティア EXPO	
出張ボラセン	
ボランティア団体交流会	
ボランティアツアー	
1 回生コンペ	
コンペ優勝企画「障がいを乗り越えろ！～車イス体験 2018～」	
ボランティア week 2018	
学生 CO 総会	
3. 基礎研修	38
研修の趣旨・内容	
4. 来年度に向けて	40
2019 年度学生コーディネーター代表 挨拶	
沖本 祐基	

■ 記録事項

資料集	42
ボランティア活動支援センター規程	51
ヒューマン・サービス支援室規程	52
ボランティア活動支援センター名簿	53
ヒューマン・サービス支援室名簿	53
2018 年度 学生コーディネーター代表部名簿	53

はじめに



ボランティア活動支援センター長

富田 宏治 (法学部教授・副学長)

関西学院には、関東大震災への支援活動をはじめ、長きにわたって災害支援活動に携わってきた歴史があります。近くは1995年の阪神・淡路大震災を契機として、関西学院大学の学生、教職員のボランティア組織としてヒューマンサービスセンターが発足し、以来20年以上にわたり活動して参りました。他にも様々な学生ボランティア活動団体が、多様なボランティア活動を積み上げてきています。

これらの伝統を引き継ぎ、去る2016年4月には関西学院大学ボランティア活動支援センターが設立され、ボランティア活動に対する大学としての相談窓口が開設されました。これによって、大学主導のもとに学生諸君のボランティア活動の支援を行なうとともに、学内の様々なボランティア活動団体相互の協力・連携をはかる態勢が整えられました。

ボランティア活動支援センターの事業推進のため、同センター内にヒューマン・サービス支援室も設置されることとなりました。ヒューマン・サービスという名前からお解りいただける通り、ヒューマン・サービス支援室は、上記のヒューマンサービスセンターの実績を直接に受け継ぐものであり、学生などによるボランティア活動を支援し促進する場となっています。その業務は、ボランティア活動への支援・助言、ボランティア活動に関する情報収集と提供、ボランティア活動についての啓発、ボランティア活動に関する評価とその公表など多岐にわたるものとなっています。

近年、地震、台風、大雨など様々な自然災害が発生しています。このような状況の中で、政府・地方自治体などの公的な支援だけでなく、ボランティアによる様々なレベル・内容の支援がますます必要とされてきています。このような状況下で、ヒューマン・サービス支援室の役割がますます重要となってきています。2016年春に発生した熊本地震では、多くの人々が被災されました。その支援のために、本学ヒューマン・サービス支援室では、2016年度から2018年度にかけ、毎年4回、計12回にわたって、延べ254人の学生を現地に送り出し、避難所や仮設団地において、現地の状況を踏まえ継続的に様々な支援活動を実施ししてきました。また2018年7月の西日本豪雨の被災地(岡山県倉敷市真備町)に対しても、計4回延べ72人の学生を派遣して、現地支援にあたりました。

関西学院大学ボランティア活動支援センターはヒューマン・サービス支援室とともに、皆様方との連携をいっそう深め、社会へのさらなる貢献をめざして歩んで参りたいと存じます。

ヒューマン・サービス支援室 室長

関 嘉寛 (社会学部教授)

私たち関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室は2016年4月の設立から3年経ちました。2年かけて組織の基礎作りをしてきました。そして今年度は、その基礎をもとに次のステップに進む1年にしたいと思っていました。それに伴い、今まで以上に多くの方々のご支援やご協力をいただくことになりました。本来であれば、お一人お一人にお礼を申し上げるべきところですが、紙幅の関係もあり、この報告書をもって、お礼にかえさせていただきますと思います。

ヒューマン・サービス支援室は、関西学院大学内におけるボランティアセンターとして、大学内におけるボランティア情報の集約や発信、そして何より大学内にボランティア文化を創り上げることがをミッションとしています。このミッションを果たすために、教員・専従コーディネーター・事務局・学生ボランティアコーディネーターとが連携しながら、1年間それぞれの役割を果たしてきました。

2018年度の活動の大きな柱は、学生ボランティアコーディネーターの自主性と創造力の向上、学生へのボランティアコーディネートやボランティア関連イベントの充実、熊本地震現地ボランティア活動などの災害対応、そして西宮上ヶ原キャンパス以外の主要2キャンパス（神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパス）での活動の開始でした。

それぞれの内容については、本文中で詳しく報告させていただきます。みなさんにはじめにお伝えしたいのは、2018年度の活動は支援室の活動が次なるステップに上がる重要な1年であったということです。

学生ボランティアコーディネーターの自主性と創造力は専従コーディネーターの指導→アドバイスのもとで高まり、学生ボランティアコーディネーターが支援室に関わる活動を「自分たちの活動」として認識し始めました。また、熊本県益城町での4回の活動のほか西日本豪雨災害への3回のボランティア活動も行えました。神戸三田キャンパスでは、新たに学生ボランティアコーディネーターを据え、コーディネート活動を定期的に行うことができました。

もちろん、いくつかの課題も見つかった1年でした。事務局体制の確立・役割分担の明確化が不足していたり、学内外のネットワークが不足していたり認知度が低かったりしたため、支援室の活動が十分に広がりを持つことができませんでした。このような状況を変えるべく、実績を積みながら、同時に発信をしていくことが重要であることを改めて感じた1年でもありました。

2018年度は新しい体制のもと、これら成果をもとに、支援室の活動を発展させ、課題を一つでも克服していき、新たな可能性を見つけていきたいと思っています。その際には、みなさまのさらなるご支援、アドバイスなどが必要となると思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

ボランティアコーディネーター

成安 有希

ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室が開室して3年が経ちました。西宮上ヶ原キャンパスで2年間立ち上げに奮闘し、今年度は神戸三田キャンパスでも本格的にボランティアセンターを立ち上げるため、キャンパスを移って奮闘した1年となりました。

神戸三田キャンパスでは週2回の開室であったため、なかなか定着せず、学生に認知してもらうことも難しかったです。2学部のみが通うキャンパスで、学生同士の横のつながりが強いという特徴があったため、数人のコアな学生に関わってもらえると、そこから輪を広げていくことができました。またその特徴によって、学内ボランティア団体の横のつながりを少しずつ築くこともでき、初年度にも関わらず、ボランティア希望の学生のみならず、すでにボランティアをしている学生が相談に来室してくれるなど、様々な利用をしてもらうことができました。

学生コーディネーター（学生CO）も、神戸三田キャンパスで12名ほど集まり、ボランティアセンターを1からつくることを協力して取り組んでくれました。まずは学生COの組織づくりからと、何もわからない中でも、どうしたら神戸三田キャンパスの学生がボランティアに取り組むだろうか、その一歩として、どうやったら支援室に足を運んでくれるだろうなどみんなで日々考え、工夫を凝らしていきました。学生COという仲間がいたからこそ、ボランティアセンターの根幹をつくれたと思いますし、1年経って、学生目線のとてもいいボランティアセンターができてきていると思います。学生COとして一緒に取り組んでくれたメンバーには感謝したいです。

災害支援では、引き続き熊本地震現地ボランティアを実施しました。被災地の状況が刻一刻と変化する中で、自分たちはどんなことができるのか。これまでやってきたことのどの部分を変え、どの部分は貫いていくのか。そんなことを学生と一緒に考えながら取り組んできました。現地に行くたびに、住民の方々に盛大に迎えていただき、改めて継続して活動することの大切さや、個人個人との関係を築くことの大切さを感じました。このプログラムを通じて、参加した学生も同じように、これらの大切さに気付いてくれたらなによりです。

ヒューマン・サービス支援室は、様々な方々のご協力やご支援をいただき、設立から3年を迎えました。日頃からご支援をいただいている関係各所の皆様には、この場をもってお礼を申し上げます。現在、学生COは全員で70名ほどにも増え、扱うボランティア情報も大変多く、少しずつ充実した環境をつくるできています。学生への認知度も年々上がり、ボランティアを探すだけでなく、様々な相談のために学生が足を運んでくれる場所となってきています。今後もさらに充実させ、学生のチャレンジを後押しできる空間にできればと思っています。

ボランティアコーディネーター

岡 秀和

ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室が開設して3年目を迎える2018年度、専従コーディネーターの増員に伴い私も支援室スタッフの仲間入りをしました。ボランティアに参加することは、最初はとても勇気がいることですが、その少しのきっかけを掴むことで世界（視野）が広がることを多くの学生に伝えたいという思いを持って日々の業務に取り組んでいます。

日々活動する中で、「学生コーディネーター（学生CO）が支援室の活動の中心である」ことを特に意識しています。いかに学生COが主体的に考え、行動し、時には大学や支援室へ提言をすることができるかで関学生のボランティアへの意識の高まりも大きく変わると考えています。学生COの所属人数も70名ほどに増え、一人ひとりとじっくり話す時間はそれほど多くありませんが、彼らの「何かしたい」という思いはとてもまっすぐで、その思いをイベントやコーディネーションという形にしていく過程に大きな意味があると感じています。学生COにどのような声をかけるか、どのタイミングでサポートするか等日々悩みはつきませんが、彼らが成長していく姿が見られることは私自身にとっても大変励みになっています。今後は学生COの組織としての活動の広がりをもとに考え、研修・育成の仕組みについても模索していきたいと思います。

さて、2018年度は大阪北部地震・西日本豪雨水害等多くの災害に見舞われた1年でもありました。大阪北部地震では被災当事者となる学生も多くいましたが、支援について具体的な検討ができなかったことを反省し、災害時対応のフローについて整理を進めました。また、西日本豪雨水害については広島や岡山出身の学生が自ら情報を集め支援室へ伝えてくれたこともあり、学生の関心を集めボランティアバスを出すことができました。熊本地震現地ボランティア参加学生が他の災害支援活動にも積極的にかかわってくれたことから、学生同士で災害支援へのエンパワメントができていることを感じました。

就任1年目から多くの災害に見舞われ、正直私自身困惑したことも多かったですが、その中でも充実した活動ができたことはひとえに関係各所の皆様、そして何より学生の皆さんのご支援・ご協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。

来年度は設立から4年目、かつ成安が最終年度となりますので、業務だけでなく思いもしっかりと引継ぎ、より多くの学生がチャレンジするための後押しができる支援室にしていけるよう、私自身も挑戦をしていきたいと思います。2019年度もどうぞよろしくお願いいたします。

2018年度学生コーディネーター代表

森本 敦史 文学部3年

どの学生COも自身の価値観、熱い想いをもち、活動に携わっています。その価値観や想いを実際に実現させる場が学生COの活動です。特に2018年度は個人の想いを大事にしてきました。学生COとして内部変革を通して想いを活動にできました。具体的には、部署を設置し、学生COの「やりたい」を「できる」ようにしました。それに加えて、ミーティングを通してボランティアについてもっと考え、意見を交換し視野を広げました。また、今まで通り、ボランティアコーディネートを大切にし、ロールプレイとワークを通して学生に寄り添う方法を学んでいきました。活動が、正しい手段であったかはわかりません。ただ、強い想いをもって、試行錯誤を繰り返しました。

この、「とりあえずやってみる」の気持ちが学生らしさであり学生COの魅力だと思います。目標である「魅力UP」はそんな学生COを体現していました。個人が持っている想いを共有し、周りを巻き込み、協力して新しいものを生み出す。このような経験は貴重であり、それを学べる学生COはとても恵まれています。「学生だから間違えてもいい」「学生だから、おもしろいことしたい」という精神があるからこそ、学生COのニーズがあるのだと思います。これからは是非、行動と想いを大切に活動してほしいと強く願っています。

2018年度の学生COの魅力の大きなものは「人」でした。新入生が30人近く入り、大きな団体になりました。その影響もあり、予定していた企画スケジュールに加えて新企画を実施することができました。企画自体も、運営から広報までうまくいっていたと思います。しかし、それより魅力的だったのは、学生CO一人ひとりの個性でした。時々、「学生COってどんな人が多いですか？」という質問をされますが、いつも「真面目で個性が強い人が多いです」と答えています。すべての学生COに同じような人は存在せず、十人十色の人が集まっています。特にこの個性が反映されているのがボランティアコーディネーターです。来室学生が同じでも、話し方、話題、紹介するボランティア、説明、こだわるポイント、全てが異なります。同じなのは、来室学生に満足してほしいという気持ちだけです。人が人にコーディネーターするのだから、多様な個性を受け入れ、人それぞれのコーディネーターをしてほしいです。

最後に、私は学生COとして、最も活動を楽しんでいると自負しています。なぜなら、周りの学生COの成長に喜びを感じ、企画での達成感の感動を共有でき、自分の想いを伝え、共感してくれる仲間がいたからです。ボランティアを広めるためには自らボランティアを楽しんでいないと伝わりません。他のメンバーにも、活動に対して自分なりの楽しみ、価値を見つけ、主体的に活動してほしいと思います。

ヒューマン・サービス支援室



1. ヒューマン・サービス支援室とは

学内における位置づけ

関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室（以下、支援室）は、大学内におけるボランティアセンターの役割を果たす部署として2016年4月に設置されました。

支援室の母体の一つになったのは、1995年阪神淡路大震災後に設立された関西学院ヒューマンサービスセンター（HSC）です。HSCでは、教職員と学生が協力して、さまざまなボランティアコーディネートがおこなわれていました。そういう意味で、関西学院大学におけるボランティアセンターの歴史は古いものです。

しかし、残念ながら、HSCは、関西学院大学内におけるボランティア活動の組織的な支援という点において課題を抱えていました。このような課題に対応するために、何年間かにわたる学内協議や勉強会の末に、大学内で組織的に位置づけられた組織として開設されました。

支援室は、関西学院大学のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現するボランティア活動を、さらに広げ、多くの学生が参加できる環境作りをミッションとしています。そのために、ボランティア活動の情報の発信や共有を中心に、ボランティアをしたい学生とボランティアをしてほしいニーズをつなげていく活動をおこなっています。たとえば、支援室の存在を学内各部署や学生に知ってもらうために、ボランティアEXPOなどのイベントを行っています。支援室は、学内におけるボランティア活動の情報をコントロールすることではなく、かつそうしている人びと、活動したい学生たちの自主性を尊重し、窓口として学内外のボランティアを活性化することを目的としています。

また東日本大震災での大学の組織的な支援を再考し、発展させることも支援室に課せられたミッションです。関西学院大学では、関東大震災時もボランティアを現地に派遣しているほど、災害救援において伝統があります。この伝統を受け継ぎ、災害が多発する現代社会において、被災者や被災地に寄り添う活動を組織的にやりたいと考えています。

2018 年度の取り組み

3年目に入り、学生 CO の増加・活性化、専従コーディネーターの増員、そして事務局体制の見直しなどに伴い、事業を拡充してきました。

主な取り組みとして、以下の5つが挙げられます。

- ボランティア情報の収集と発信
- ボランティア関連イベントの企画、実施
- 学生コーディネーター（学生 CO）の育成
- 神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスでの活動
- 災害支援活動：熊本地震被災地支援活動および西日本豪雨水害支援活動

<ボランティア情報の収集と発信>

昨年度に引き続き、外部団体のボランティア募集情報の収集、整理をし、来室学生に紹介しました。学内外での認知度が少しずつ上がり、各方面から情報が寄せられるようになったため、情報が充実しました。また、今年度から情報整理のためにタブレット端末を導入しました。学生 CO にも使い方を指導することで、コーディネートの際にも、より詳細な情報を提供することができるようになりました。発信に関してはまだ発展途上な部分もあるので、引き続き重要な課題として取り組んでいきます。

<ボランティア関連イベントの企画、実施>

学生 CO とともに、ボランティアに関するイベントを学内外で実施しました（イベントの詳細は 30 ページ以降に掲載）。学生 CO の中で実行委員会を編成し、企画書作成から企画を実施するまで、どのようなステップを踏むのかを確認しながら進めていきました。最初は手探りだった学生も、イベントを重ねるごとに、学生同士で教えあい、全員が協力してイベントを実施することができました。

<学生コーディネーター（学生 CO）の育成>

支援室の活動の中心である学生 CO が力をつけ、来室した学生への対応などの質を担保するために、年度初めに基礎研修会を実施しました。初めて宿泊を伴う研修を実施したことで、ボランティアに関する基本的な内容や企画を立てるワークショップだけではなく、学生 CO 同士が交流し連携を深めるためのレクリエーションも行うことが出来ました。

また、年度の終わりには総会を行いました。総会を通じて、学生 CO が 1 年を振り返り、次年度に向けての課題と目標を考える機会を創ることができました。

2018年度の取り組み

<神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスでの活動>

関西学院大学の主要3キャンパスは、それぞれ異なる性格を持っているため、それぞれのキャンパスの特性に応じた活動を展開しました。まず、不定期に月1～2回ほどで活動していた神戸三田キャンパス（KSC）での活動を定例化しました。具体的には、週に2回ヒューマン・サービス支援室を開室した他、熊本地震現地ボランティアについての展示を出したり、総合政策学部・理工学部のチャペルアワーで支援室についての広報をしたりしました。KSCにある総合政策学部は、社会貢献活動などに関心をもつ学生も多く、学生COとして活動してくれる学生も出てきました。

また、教育学部が置かれている西宮聖和キャンパス（NSC）では、ほかの2キャンパスに比べると規模も小さく、カリキュラムの特性があるため、既存の学内団体との連携を深めることに取り組みました。NSCの学生団体が主催となる「ボランティア EXPO」のサポートをしたり、NSC所属の団体との意見交換会を実施したりしました。

<熊本地震被災地支援活動>

2016年度、2017年度に引き続き、年間4回の活動を実施しました。学生の関心も依然として高く、毎回募集定員の2倍ほどの応募がありました。参加者は、事前研修を通して、自分たちが現地でする活動を自ら考え、準備をしました。現地では本校の活動を待っている住民の方が増え、継続して活動することの重要性を感じました。

<西日本豪雨水害支援活動>

2018年7月に起きた西日本豪雨水害による被災地域である岡山県倉敷市真備町での支援活動を実施しました。ヒューマン・サービス支援室では西宮市社会福祉協議会などと連携して情報収集を行い、計3回ボランティアバスを出し現地支援を行いました。倉敷市災害ボランティアセンターを通じて活動を行い、泥かきや家屋の清掃などに取り組みました。

2019年度の計画

2018年度のふり返りから、重点的に取り組む活動は以下の4点にしました。

- 学生COとの協働
- 神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスへの展開
- 熊本地震現地ボランティアの収束
- 災害支援対応の確立・準備

<学生COとの協働>

大学ボランティアセンターである支援室にとって、学生COの活躍は必須のものと考えています。4年目に向け、さらにその力を発揮できるような環境作りを進めていきます。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- ・研修会の発展
- ・運営体制の見直し

<神戸三田キャンパス・西宮聖和キャンパスへの展開>

現在は、西宮上ヶ原キャンパスを中心とした活動になっていますが、他の2キャンパスの学生に対してもそれぞれの特性に合った支援をしていく必要があると考えています。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- 神戸三田キャンパス
 - ・キャンパス事務室との連携
 - ・活動および活動場所の継続
 - ・ボランティアに関するイベントの実施
 - ・学内ボランティア団体との連携強化
 - ・広報活動
- 西宮聖和キャンパス
 - ・学生団体やキャンパス事務室との連携
 - ・ボランティアに関するイベントの実施
 - ・認知度の向上

<熊本地震現地ボランティアの収束>

2016年度から続けてきた熊本地震現地ボランティアについて、仮設住宅の入居期限を迎える2019年度で終了する見込みです。4年間の活動にどのような意義があったか、学生目線や当事者の目線でこの活動を収束させたいと思います。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- ・大学が災害支援を行う意義と課題の集約
 - ・4年間の活動のまとめと課題を可視化する
- [例] 熊本地震現地ボランティア 過去参加者が集まる「集い」を開催
- 参加学生などが聞いた被災者や関係者の話を集約
 - 参加学生の声・アンケートの集約
 - 引率教員・職員のレポート作成

<災害対応の確立・準備>

関西学院大学では、関東大震災にはじまり多くの災害に学生がボランティアとして支援活動をおこなっています。その活動を組織的に支えられるような体制づくりが必要だと考えています。そのために、以下のような点に留意しながら活動していきます。

- ・災害発生時の対応の方針を立てる
- ・西宮市社会福祉協議会など関係団体と災害支援連携について確認する
- ・災害支援について学ぶ機会の提供をするために、学内外の関係部署・組織と連携を図る

2. ボランティアコーディネート

支援室の利用・活動状況

【西宮上ヶ原キャンパス】

月別来室者のべ数 (人)

月	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	合計
4月	73	3	5	81
5月	63	3	11	77
6月	29	1	10	40
7月	23		6	29
8月	1	2		3
9月	4	2	1	7
10月	27	4	5	36
11月	19	1	7	27
12月	22	1	3	26
1月	9	1	5	15
2月	1			1
3月	5			5
合計	276	18	53	347

【神戸三田キャンパス】

2018年4月から、神戸三田キャンパスでもボランティアセンターを開室しています。

基本的には週に2回開室し、上ヶ原キャンパスと同じようにボランティア情報の紹介や、相談事業を行いました。

日別来室者のべ数 (人)

月	開室日数	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	合計
4月	7回	22		18	40
5月	9回	26		30	56
6月	8回	9		6	15
7月	8回	6	3	2	11
9月	2回	0		0	0
10月	6回	9		18	27
11月	8回	7		11	18
12月	6回	5		13	18
1月	6回	9		13	22
合計	60回	93	3	111	207

【利用者内訳（Welcomeシート記入者分）】

* Welcomeシートとは

支援室に来室した学生で、ボランティア情報の紹介を希望する学生に記入してもらっているシートです。

学部・学年・名前のほか、興味があるボランティアのジャンルを√してもらうことでコーディネーションに活用しています。

(人)

学年/学部	神	文	社会	法	経済	商	理工	総合政策	人間福祉	教育	国際	合計
1年生	0	25	29	35	19	12	16	57	25	9	23	250
2年生	0	5	4	6	1	5	2	15	11	3	1	53
3年生	0	11	10	2	1	0	2	19	7	6	2	60
4年生	0	6	1	3	3	1	0	2	0	0	1	17
研究科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	47	44	47	24	18	20	93	43	18	27	381

※一部、welcomeシートを記入していない学生や、複数回来室した学生で1枚しかシートを記入していないケースがあったため、来室者のべ数と利用者内訳で人数が違ってきます。

【西宮聖和キャンパス】

2018年度は学内団体をサポートして「聖和ボランティア EXPO」を開催した他、今後の西宮聖和キャンパスでの展開について学内団体と意見交換会を行った。

聖和ボランティア EXPO

日 程：2018年10月11日（木） 11：10～15：00

場 所：西宮聖和キャンパス ラーニングコモンズリプラ 2階

内 容：「関学最大のボランティアの祭典」と称し、西宮上ヶ原キャンパスで毎年開催している関学大生が所属するボランティア団体の合同説明会。来場者は会場を自由に出入りでき、興味のある団体の話を聞くことができる。西宮聖和キャンパスではこれが初めての開催。

主 催：西宮聖和キャンパス学生YMCA、CORs

協 力：ヒューマン・サービス支援室

来場者数：13名

出展団体：14団体

- ・ヒューマン・サービス支援室 学生コーディネーター
- ・西宮聖和キャンパス学生YMCA
- ・CORs
- ・関関 COLORS
- ・学生団体Infinite Connection
- ・K.G.BrainHumanity
- ・PENS
- ・関西学院 上ヶ原ハビタット
- ・学習ボランティアサークル ALIVE
- ・ほっとコミュニティ
- ・リーダーズカフェ /宝塚つばめ学習会
- ・学生国際協力団体CUE
- ・子どもの友
- ・西宮聖和キャンパス キャリアセンター



外部団体からの情報提供数

支援室では、提供していただいたボランティア情報と提供数を17種類のジャンルに分けて紹介しています。ジャンルは、1つの情報に対して最大3つまで選択しています。

(情報)

子ども・青少年	子どもたち、中高生などに関わる活動（キャンプ、子ども食堂、子どもたちの工作サポートなど）	121
教育	主に教科指導（勉強）に関わる活動（学校内での児童・生徒支援事業、塾での勉強支援、学習支援活動など）	46
福祉（障がい）	障がいがある方の余暇活動の同行、支援施設での活動など	58
福祉（高齢）	高齢者に関わる活動（介護施設での活動など）	17
医療・保健	献血、病院でのボランティア活動、心に病を持つ人への支援活動など	13
国際	国内外問わず、海外の方と関わる活動（海外での支援活動、国内での日本語教育支援活動など）	60
環境	環境保護・保全に関わる活動（植林活動、ごみゼロ運動、清掃活動、水質保全活動など）	45
動物	動物保護、生態系の再生・保全活動など	2
芸術・文化	美術館・博物館での活動、音楽祭のサポート、地域文化の保全活動など	18
スポーツ	スポーツに関わる活動	33
災害支援	防災活動、災害時の救援・支援活動、災害記念式典の運営など	53
まちづくり	地域住民と関わる活動、地域PR活動、まちあるきの運営など	50
祭り・イベント	お祭りや行事の運営、お手伝いなど	88
人権	難民・難病がある方の支援や権利擁護活動など	13
スタディツアー	参加者と現地の人々の相互理解や体験学習を目的とする活動（平和学習、文化体験など）	22
学内団体	大学公認団体、所属している学生の8割以上が関学生 or MTGを関学内でやっている団体	25
その他	上記にあてはまらないボランティア活動（講演会、勉強会、ワークショップを含む）	77
	総計	741

月別情報件数（うち、来室した団体数）

4月	51情報（6）	
5月	43情報（1）	
6月	48情報（11）	
7月	20情報（0）	
8月	11情報（3）	
9月	18情報（2）	春学期 191情報(23)
10月	27情報（7）	
11月	24情報（3）	
12月	14情報（2）	
1月	37情報（1）	
2月	17情報（2）	
3月	48情報（5）	秋学期 167情報(20)
計	358情報（43）	

3. 災害支援活動

2018年度の災害支援活動について

2018年度は、主にこれまで続けてきた熊本地震現地ボランティア活動の継続と、西日本豪雨水害に伴う岡山県倉敷市真備町でのボランティアバスの活動の2つを軸に活動しました。

2016年度から継続して行っている熊本地震現地ボランティア活動は引き続き益城町の仮設住宅にて活動を実施しました。現地の方との関わりも継続するにつれて深まり、「関学生が来てくれると聞いて（集会所に）来たよ」と言っていたと場面もありました。加えて、今年度は仮設住宅の集会所で活動するだけでなく、戸別訪問という形で各住宅へ訪問してお掃除や畑仕事などをさせていただきました。徐々に仮設住宅を退去される方も増えてきた中で、今後どのような支援が必要かを改めて考える1年となりました。また、仮設住宅の入居期限となる2019年度は、ヒューマン・サービス支援室としても熊本地震現地ボランティア活動をどのように収束するか、学生が今後熊本とどのようなかわり方が継続できるかを模索したいと思います。

今年度は2018年7月に発生した西日本豪雨水害への支援活動も実施しました。水害発生当初より、ニュースなどを見て「自分にも何かできることはないか」と考えた学生たちがLINEグループで水害支援のネットワークを作りました。学生からは「現地へ支援に行きたい」という声が上がりました。ヒューマン・サービス支援室は西宮市社会福祉協議会や災害支援NPOと情報交換を行う中、特に岡山県倉敷市真備町では家屋の清掃等、支援が必要だということを確認しました。そして、ボランティアバスを3度運行して真備町の災害ボランティアセンターを通じて活動を実施しました。（第3回の活動は台風接近のため中止）

また、水害支援のネットワークから有志の学生が「レモネード大作戦」というチャリティー活動を立ち上げ、売上金を寄付するという活動も行われました。有志の学生の中で中心となったのは過去に熊本地震現地ボランティアに参加したメンバーで、災害支援への関心を継続して持ち続け、自ら支援活動を考え実践する姿も見られました。

災害支援活動スケジュール

2018年度	内容	場 所
4月14日(土) ～15日(日)	熊本現地視察	熊本県益城町他
4月16日(月) ～24日(火)	第9回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
5月16日(水)	くまモンへの活動報告	西宮上ヶ原キャンパス B102教室
6月8日(金) ～11日(月)	第9回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
6月26日(火) ～7月5日(木)	第10回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
7月30日(月) ～8月5日(日)	第1回西日本豪雨水害ボランティアバス 募集期間	
8月3日(金)	第8回熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組収録(2018年9月1日(土)放送)	さくらFM
8月10日(金)	第1回西日本豪雨水害ボランティアバス活動	岡山県倉敷市真備町
8月24日(金) ～28日(火)	第2回西日本豪雨水害ボランティアバス 募集期間	
9月1日(土)	第2回西日本豪雨水害ボランティアバス活動	岡山県倉敷市真備町
9月6日(木) ～10日(月)	第10回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
9月10日(月)	第9回熊本地震現地ボランティア活動報告 活動情報誌発行	
9月11日(火) ～19日(水)	第3回西日本豪雨水害ボランティアバス 募集期間	
9月19日(水) ～27日(木)	第11回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
9月30日(日)	第3回西日本豪雨水害ボランティアバス活動予定日 【台風の接近に伴い中止】	
10月5日(金) ～14日(日)	第4回西日本豪雨水害ボランティアバス 募集期間	
10月13日(土)	熊本地震現地ボランティアOBOG会	大阪梅田キャンパス 1005教室
10月16日(火) ～18日(木)	有志学生によるチャリティー企画「レモネード大作戦」	西宮上ヶ原キャンパス 生協前プラザ
10月20日(土)	第4回西日本豪雨水害ボランティアバス活動	岡山県倉敷市真備町
11月9日(金) ～12日(月)	第11回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町
12月4日(火) ～14日(金)	第12回熊本地震現地ボランティア 募集期間	
12月10日(月) ～14日(金)	第10回熊本地震現地ボランティア活動報告： ポスター展示(ボランティアweek)	西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランス 西宮聖和キャンパス ラーニングコモンズリブラ 神戸三田キャンパス II号館102教室前 VI号館201教室前
2019年 2月2日(土) 3月2日(土)	第11回熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組収録(2019年4月14日(日)放送)	さくらFM
2月16日(土)	西日本豪雨水害ボランティアバス活動報告、 「レモネード大作戦」	西宮聖和キャンパス 子どもセンター さぼさぼ
2月22日(金) ～26日(火)	第12回熊本地震現地ボランティア活動	熊本県益城町

【熊本地震支援】

くまモンへの活動報告



日 程：2018年5月16日（水）15：00～15：30

場 所：西宮上ヶ原キャンパスB号館102教室

内 容

- ・活動報告
- ・活動に参加した感想
- ・くまモンからのお礼：サイン、プレゼント贈呈



第9回 熊本地震現地ボランティア活動



日 程：2018年6月8日（金）～11日（月）

参加人数：学生21名 / 教職員4名

1年生：5名、2年生：5名、3年生：10名、M2：1名

活動内容

木山仮設団地

活動：子ども遊び＆茶話会、ぺたぺた手形アート

馬水東道仮設団地

活動1日目：アクティビティゲーム（クイズ、マシュマロチャレンジなど）、模造紙アート

活動2日目：何でも屋さん、茶話会

安永仮設団地

活動：たこやき作り、ドーナツ作り



第8回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組製作



日 程：(収録日) 2018年8月3日(金)
(放送日) 2018年9月1日(日)
14:00～15:00

協 力：さくらFM株式会社

内 容

番組名：『LookBack熊本 2years ago!』

- ①熊本地震の概要
- ②熊本地震現地ボランティアの活動報告(第1回～第8回)
- ③熊本の魅力
- ④熊本の現状と課題、今後の支援について



第10回 熊本地震現地ボランティア活動



日 程：2018年9月6日(木)～10日(月)

参加人数：学生18名 / 教職員4名

1年生：5名、2年生：6名、3年生：3名、4年生：4名

活動内容

まち歩き

テーマ：震災によって壊れたものを写真におさめて、その背景を考えよう

木山仮設団地

活動：茶話会(そうめん作り・折り紙)&子ども遊び

馬水東道仮設団地

活動1日目：昔遊び(カルタ、万華鏡作り、けん玉など)

活動2日目：マニキュア体験

安永仮設団地

活動：パンケーキ作り、茶話会



熊本地震現地ボランティア OBOG会



*OBOG 会の開催趣旨

第1回～10回の現地ボランティア参加メンバーに呼びかけ、熊本のことについて振り返りながら、当時の仲間と、そして回をまたいで新しい仲間との交流を通じて、今後の活動について考えるために開催

日 程：2018年10月13日（土）

第1部：17：30～19：00、第2部：19：30～21：30

参加人数

- ・第1部：学生11名 / 教職員4名
2年生：2名、3年生：4名、4年生：5名
- ・第2部：学生13名 / 教職員2名
2年生：2名、3年生：5名、4年生：5名、卒業生1名

場 所：大阪梅田キャンパス 1005教室

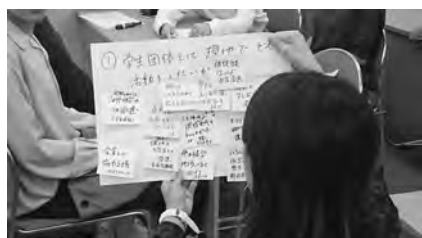
テ ー マ：これまでの活動を振り返り、これからの活動を考えよう

内 容

第1部：ワークショップ

- ・各回の活動内容振り返り
- ・活動に参加したことでどんな変化があったか
- ・大学としてではなく、「学生団体」として現地で活動するとしたら何をするか

第2部：懇親会



第11回 熊本地震現地ボランティア活動



日 程：2018年11月9日（金）～12日（月）

参加人数：学生16名 / 教職員3名

1年生：5名、2年生：3名、3年生：5名、4年生：3名

活動内容

木山仮設団地

活動：揚げ餃子作り、茶話会（折り紙）

馬水東道仮設団地

活動1日目：みんなで体を動かそう！（チアダンス）、なんでも屋さん（お宅訪問）

活動2日目：水餃子作り、茶話会（折り紙、カルタ）

安永仮設団地

活動：ブレスレット作り、茶話会（折り紙）



第10回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ボランティア week ポスター展示



日 程：2018年12月10日（月）～14日（金）

場 所：西宮上ヶ原キャンパス

大学図書館エントランス

西宮聖和キャンパス

ラーニングコモンズリプラ

神戸三田キャンパス

II号館102教室前

VI号館201教室前



内 容

全体テーマ：『なぜ今熊本に行くのか』

- ①行ったことでわかることがある
- ②私たちがしてきたこと
- ③こんな成長ができるから
- ④これからもしたいこと

第11回 熊本地震現地ボランティア活動報告 ラジオ番組製作



日 程：（収録日）2019年2月2日（土）、3月2日（土）

（放送日）2019年4月14日（日）12：00～13：00

協 力：さくらFM株式会社

内 容

番組名：『熊本のみんなは元気だモン！～熊本地震発生から3年を迎えて～』

- ①熊本って？：熊本地震の概要や現地ボランティアについて、出身有名人や名産品について
- ②活動参加学生の声：活動に複数回参加した関学生へのインタビュー（現地の様子や移り変わり）
- ③ココが熊本のよかとこばい！：観光地など、熊本の魅力を楽しく伝える
- ④これからの熊本：関学生のこれからの関わり方、展望



第 12 回 熊本地震現地ボランティア活動



日 程：2019年2月22日（金）～26日（火）

参加人数：学生 21 名 / 教職員 2 名

1 回生：8 名、2 回生：6 名、3 回生：3 名、4 回生：4 名

活動内容

木山仮設団地

活動：貝殻でひな人形作り、ブックカバー作り、茶話会
(折り紙)

馬水東道仮設団地

活動 1 日目：入浴剤作り、集会所で行われる誕生日会の準備お手伝い

活動 2 日目：なんでも屋さん（お宅訪問をしてお手伝い）、杉原紙で写真立て作り・小物入れ作りなど

安永仮設団地

活動：ハーバリウムづくり、足湯、ハンドアロマ、茶話会
(折り紙)

大観峰（阿蘇市）での地震学習と振り返り

ワークショップ

- ・フォトブック作成
- ・支援室としての活動の終え方 / 個人としての続け方を考える

2018 年度 熊本地震現地ボランティア参加者数

(人)

学年	神	文	社	法	経済	商	理工	総合政策	人間福祉	教育	国際	研究科	合計
1 年生	1	3	4	2	2	4	2	4	0	0	1	0	23
2 年生	0	3	4	2	0	3	1	4	3	0	0	0	20
3 年生	0	3	4	1	0	3	1	1	2	3	3	0	21
4 年生	0	0	0	4	4	0	0	2	1	0	0	0	11
研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	1	9	12	9	6	10	4	11	6	3	4	1	76

現地ボランティア参加者感想

第9回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

商学部3年
加来 祐二郎

この活動に参加する前と今とで「ボランティア」に対するイメージががらっと変わりました。ボランティアって素敵なことだなと思います。ただ被災した人たちとおしゃべりしたり遊んだりするだけでも立派なボランティアで、相手も僕らもどちらも幸せな気持ちになりました。ボランティアは心の成長や充実を感じられるものだということを知りました。大事な的是お金とかより人とのつながりなのかなって思うことができました。

この経験を友だちとか家族に伝えたいし、また機会があれば新たな人や今回出会った人たちに会いに行こうと思います。本当に今回の活動に参加できて良かったです。ありがとうございました。

第10回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

法学部1年
柳田 奈津未

現地に行かないと本当にわからないことがたくさんあることを知りました。目の前にいる人の背景を知り、役割を通じて、できあがった関係を大切に。継続的につながることが大切だと思います。

ただ、ボランティアとしての在り方が今後本当に問われていくなぁと思いました。ボランティアがいることで、逆に現地の人々の負担になっていないか。ボランティアに終わりがあるのか。答えのない問題はすごく難しいです。ただ、自分は今回初めて参加してみて、貴重で今後生かせるすごくいい経験をさせてもらったのは確かです。

第 11 回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

文学部 2 年
森井 麻優子

2 日間の活動を通じて、これまでお会いしたことのない人たちと協力して 1 つのことを完成させることができたりのんびりお話ししながら趣味・震災のことなど様々なことを聞くことができ、楽しい時間を過ごせました。仮設で暮らす方々は当初私が想像していたよりもずっと明るく、皆さん元気で、仮設住宅の大変さなどマイナスなイメージを感じさせないほどでした。ですが、話をしているうちに見えてくる現実というものがあり、笑顔の背景にはつらい経験をされているのだということを痛感しました。苦労がある中でも、住民同士で催しを開かれていることを知り、仮設住宅に住まわれているからこそ出逢えた仲間や楽しい時間があるのだと思いました。

第 12 回 熊本地震現地ボランティア活動参加学生

理工学部 3 年
竹本 みぞれ

熊本でのボランティアは 3 回目で、1 年ぶりに大観峰に行き、前回の活動（野焼き棒作り、商店街回り、仮設での活動）を思い出すことができ、とても懐かしくなりました。熊本に何度も行き、たくさんの場所に連れて行ってもらい、熊本現地ボランティアのことを思い出すことができる場所が増えていっているなあと感じました。

震災の話を聞いて、日常のある一場面の時に震災が起こるんだと、改めて感じました。いつ何時何があるかわからないんだと自然災害の怖さを再び感じることができました。私も時折、1 人にいるときに震災があったらどうしようとする時があるんですが、みんなといるときにも少し意識してみるのもいいのかなと思いました。

フォトブック作りでは、写真を見返す行為をすることで仮設の方も、学生もみなさん笑顔で、笑顔の写真を見て私も癒されました。たくさんの写真があつて見返すのは大変ですが、とても大切な時間だなと思いました。

【西日本豪雨水害支援】

第1回 西日本豪雨水害ボランティアバス



日 程：2018年8月10日（金）

参加人数：学生27名 / 教職員4名

1年生：9名、2回生：5名、3回生：4名、4回生：9名

活動内容

- ・泥かき、家具の搬出
- ・食器の運搬、窓拭き、窓の枠組みの掃除
- ・壁の取り壊し、壁の土の取り除き、土を土嚢につめる作業など



第2回 西日本豪雨水害ボランティアバス



日 程：2018年9月1日（土）

参加人数：学生26名 / 教職員2名

1年生：7名、2回生：4名、3回生：7名、4回生：4名、
M1生：3名、科目等履修生1名

活動内容

- ・食器の運搬、窓拭き、窓の枠組みの掃除
- ・壁の取り壊し、壁の土の取り除き、土を土嚢につめる作業
- ・反熱材の撤去、砂や泥を家の外へ出す作業



レモネード大作戦



*レモネード大作戦とは

熊本地震現地ボランティア参加メンバーや学生コーディネーターが中心となり、学生有志を募って始めた西日本豪雨水害被災地支援のチャリティーイベント

日 程：2018年10月16日（水）～18日（木）10：00～16：00

場 所：西宮上ヶ原キャンパス 生協前プラザ

主 催：関西学院大学 学生有志

後 援：ヒューマン・サービス支援室

売 上 計：104,200円

⇒必要経費を除く10万円をベルマーク教育助成財団に寄付

第4回 西日本豪雨水害ボランティアバス



日 程：2018年10月20日（土）

参加人数：学生19名 / 職員1名

1年生：4名、2年生：4名、3年生：5名、4年生：6名

活動内容

- ・民家で木を掘り出す作業
- ・民家の掃除（窓ふき、壁掃除など）
- ・災害ボランティアセンター移転作業お手伝い、帰ってきたボランティアへの給水等サポート

※第3回 西日本豪雨水害ボランティアバスは台風の接近に伴い、中止。

西日本豪雨水害ボランティアバス活動報告 & レモネード大作戦



日 程：2019年2月16日（土）13：30～15：30

場 所：西宮聖和キャンパス 子どもセンター さぼさぼ

内 容

- ・「西日本豪雨水害ボランティアバス」の活動報告（活動参加者へのインタビュー形式）
- ・学生有志による「レモネード大作戦」の実施



売上金+寄付金 7,000円をベルマーク教育助成財団へ寄付

2018年度 西日本豪雨水害ボランティアバス参加者数

(人)

学年	神	文	社	法	経済	商	理工	総合 政策	人間 福祉	教育	国際	研究科	科目等 履修生	合計
1年生	0	3	4	5	3	1	0	1	0	1	2	0	0	20
2年生	0	1	0	3	1	2	1	1	2	2	0	0	0	13
3年生	0	2	0	1	2	1	2	5	0	1	2	0	0	16
4年生	0	1	3	3	3	1	0	2	3	1	2	0	0	19
研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
科目等 履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	0	7	7	12	9	5	3	9	5	5	6	3	1	72

ボランティアバス参加者感想

第1回 西日本豪雨水害ボランティアバス活動参加者

社会学部1年
田中 緒実

本格的なボランティア活動に参加するのも、今回のような被災地を訪れるのも初めてでした。被災された方々に何か出来れば、と思って参加しました。直接、被災された方とお話する機会がありましたが、思っていた以上に被害が大きくお疲れの様子でした。

次に参加する時には、被災された方とより深いコミュニケーションが出来るように、自分から積極的にお話したいです。また、ボランティアだからこそできることが何かあると思うので、そういった面で力になればいいなと思います。

第2回 西日本豪雨水害ボランティアバス活動参加者

言語コミュニケーション文化研究科
博士課程前期課程1年
白 宇

初めてのボランティア活動で、とても良い経験になった。実際に現場に来たことで、被災地の広さと大変さがわかった。

そして、共にボランティア活動に携わったグループメンバーとも友達になった。休憩時間に活動の感想について話し合っ、共感を覚えて、勉強にもなった。また、活動が始まる時のみんなの自己紹介や終わった時の振り返りがとても良かったと思う。違う意見を吸収することで、成長にもつながったなと感じた。

最後に、現地の方々が本当に優しく、靴についた泥を水で綺麗にしてくれたり、かき氷まで用意してくれたりして、感動した。またこのような活動に参加したいと思う。

第4回 西日本豪雨水害ボランティアバス活動参加者

総合政策学部3年
胡子 奈々

被災地ボランティアは初めての経験でした。想像していた作業イメージと異なる作業をすることになり、初めは正直この軽作業で、ここで役に立てるのか残念に思っていました。しかし、必要なボランティア作業や人数を把握し、住民とボランティアの仲介でとても忙しくしておられるサテライトの方々の様子を見て、ボランティア側は現地の人と共に動くこと、臨機応変に対応することが一番大切で、現地では外部の人が予想できない必要な作業が多くあるということが分かりました。今回の作業で現地の方々の手助けができ、沢山の気付きがあり、参加して本当に良かったと感じました。

学生コーディネーター



1. 学生コーディネーター（学生CO）とは

年間活動スケジュール

日 程	内 容	場 所
4月3日（火） ～5日（木）	新入生オリエンテーション： パワポでの紹介、春ボラ配布	西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、西宮聖和キャンパス 各教室等
4月12日（木） ～13日（金）	ボランティア EXPO2018	西宮上ヶ原キャンパス G号館会議室1
4月18日（水）、 20日（金）	新入生歓迎会：ランチ会	西宮上ヶ原キャンパス 中央芝生
4月23日（月）、27日（金）、 5月2日（水）	新入生説明会	西宮上ヶ原キャンパス H号館302教室
5月12日（土） ～13日（金）	基礎研修	千刈キャンプ
5月28日（月） ～6月1日（金）	出張ボラセン	西宮上ヶ原キャンパス 学生会館旧館ラウンジ前
6月2日（土）	ボランティア団体交流会	大阪梅田キャンパス 1005教室
8月～9月	ボランティアツアー	
9月11日（火）	1回生コンペ	西宮上ヶ原キャンパス G号館301教室
10月12日（金）	コンペ優勝企画「障がいを乗り越えろ！～車イス体験2018～」	西宮上ヶ原キャンパス 中央芝生周辺
12月10日（月） ～14日（金）	ボランティア week ・展示「Let's! みるぼら2018」 ・学生CO企画「関学をジャック!!!」 ・学内ボランティア団体向け勉強会「人を巻き込む企画のつくり方」	西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館エントランス H号館305教室 西宮聖和キャンパス ラーニングcommonsリプラ 神戸三田キャンパス II号館102教室前 VI号館201教室前 ほか、多数の場所にポスターを設置
12月22日（土）	学生コーディネーター総会	西宮上ヶ原キャンパス 新学生会館会議室9

2018年度の活動方針、目標

2018年度年間目標「魅力UP」

2018年度の目標は「魅力UP」としました。

COの魅力が学内全体に広がることでボランティアを盛り上げたいという思いから、この目標を設定しました。

学生CO内部の魅力を活かし、関西学院大学の学生にもボランティアが普及することで目標を達成します。

2017年度の活動の中で見えた学生COの課題は、「ミーティングの参加率が低い」というものでした。この課題を解決し、学生COの魅力である「仲の良さ」や、「学生目線のイベント」を外部に発信することでボランティアの魅力を学生に伝えていきます。

具体的な目標は、「イベントの目標を前年度よりも上回ること」、「ミーティングの参加率を上げること」としました。

そのために、「ミーティングの質を上げ、ミーティング参加のモチベーションを上げること」、「仲の良さを創り、活かすために5つの部署を設置し、組織的な運営をすること」、「企画の改善ができるように、振り返りシートを利用すること」、「企画の向上のため、すべてのメンバーが1つ以上の企画に参加すること」などを行います。

学生CO全員が協力し、3年目という節目に更に魅力を引き出し、躍進していきます。

2. 学生コーディネーターの活動

春ボラ



*「春ボラ」とは

「春のボランティア情報誌」の略称。学内のボランティア団体を1冊にまとめた冊子。毎年新入生オリエンテーションで新入生全員に配布する。

日程：4月3日（火）～5日（木）

場所：各学部の新入生オリエンテーション実施教室等

内容：新入生オリエンテーションにて「春ボラ」を配布すると同時に、パワーポイントを使ってヒューマン・サービス支援室の紹介をする。



■「春ボラ」掲載団体 (32 団体)

- ・ヒューマン・サービス支援室
- ・ヒューマン・サービス支援室 学生コーディネーター (学生 CO)

○大学公認団体

- ・関西学院上ヶ原ハビタット
- ・学習ボランティアサークル ALIVE
- ・関西学院大学 宗教総部
- ・ほっとコミュニティ
- ・K.G. Brain Humanity
- ・くじら
- ・CLUB GEORDIE
- ・Eco-Habitat 関西学院
- ・SSV 関西学院
- ・AIESEC
- ・子どもの友
- ・関西学院大学 YMCA
- ・J-FUN ユース K.G

○学内団体

- ・IVUSA 兵庫西宮クラブ
- ・new look
- ・STUDY FOR TWO 関学上ヶ原支部
- ・Linkall
- ・日本手話サークル はなまる
- ・Salus Aqua
- ・Bridge for Children,KGU

○インカレ団体

- ・関関 COLORS
- ・学生団体 Infinite connection

○学外団体

- ・地域フィールドワーク宝塚
- ・どんぐり文庫
- ・学生国際協力団体 CREDO
- ・教学の森
- ・PENS
- ・リーダーズカフェ / 宝塚つばめ学習会
- ・西宮かぶとむし

○学内部署から公認または支援を受けている団体

- ・KG CLUB (入試課)
- ・SCCV (教育学部)

ボランティア EXPO



日程：2018年4月12日（木）～13日（金）

両日ともに10：30～16：50

場所：西宮上ヶ原キャンパスG号館会議室 1

内容：「関学最大のボランティアの祭典」と称し、毎年開催している関学生が所属するボランティア団体の合同説明会。来場者は会場を自由に入出りでき、興味のある団体の話を聞くことができる。

来場者数（のべ）：389名

出展団体：15団体

- ・ヒューマン・サービス支援室 学生コーディネーター
- ・関西学院大学 宗教総部
- ・STUDY FOR TWO
- ・地域フィールドワーク宝塚
- ・日本手話サークルはなまる
- ・ほっとコミュニティ
- ・AIESEC関西学院大学
- ・関西学院上ヶ原ハビタット
- ・リーダーズカフェ/宝塚つばめ学習会
- ・IVUSA 兵庫西宮クラブ
- ・K.G. BrainHumanity
- ・関西学院大学YMCA
- ・学習ボランティアサークルALIVE
- ・関関COLORS
- ・PENS

出張ボラセン



日程：2018年5月28日（月）～6月1日（金）

10：30～16：00 ※最終日のみ 15：00 終了

場所：西宮上ヶ原キャンパス

学生会館旧館 1階ラウンジ前

内容：普段はヒューマン・サービス支援室で活動している学生ボランティアコーディネーターが学内の別の場所に文字通り「出張」して、ボランティア紹介をするイベント。「何かしたいけれど、支援室に行く勇気がない」という学生にきっかけを提供することが狙い。

来場者数：29名

（うち、27名にボランティアコーディネート）

ボランティア団体交流会



日程：2018年6月2日（土）17：30～20：30

場所：大阪梅田キャンパス1005教室

内容：学内ボランティア団体の横のつながりを強くするため、アイスブレイクやワークショップを実施。各団体の活動紹介や、団体内の課題を他団体の学生と話すことで団体をこえて交流し、つながりを深めた。

参加団体数：5団体（計20名）

ボランティアツアー



日程：夏季休暇中（8～9月）

活動先：7か所

たからづか子ども食堂：子どもの学習支援、調理（8月6日、20日）

阪神スピック：車いすバスケット（8月1日、8日）

特別養護老人ホームにしのみや苑：納涼祭（8月25日）

フォレスター松寿：森の整備、草刈り、植樹（9月1日）

一般財団法人日本熊森協会：保育熊のエサやり、寝床掃除など（8月7日、28日）

特定非営利活動法人ペットフォーライフ：犬や猫のお世話（8月22日、23日）

西宮市段上児童センター：夏祭りのお手伝い（8月30日、31日）

内容：ボランティアには関心があるが、1人で参加するには不安な学生対象に、学生COと一緒に活動先に行くイベント。活動先は毎年変更し、様々な活動を経験できるようにしている。

参加者数（延べ数）：77名

（一般学生：27名、学生CO：50名）

1 回生コンペ



日程：2018年9月11日（火）10：00～15：00

場所：西宮上ヶ原キャンパスG号館301教室

内容：学生CO1年生が6つの班に分かれて、学内で実施するボランティア啓発イベントの企画を考える。企画力を鍛えることで支援室や学生COの活動への理解度を高めること、1年生同士の横の繋がりを作ることを目標とする。優勝した班の企画については実際に実施する。

審査員

室長1名、専従コーディネーター2名、事務職員1名、学生コーディネーター4年生（元副代表）1名

評価基準

1. 創造性
2. 実現可能性
3. 課題解決力
4. チーム力
5. 熱意

コンペ優勝企画「障がいを乗り越えろ！～車イス体験2018～」



日程：2018年10月12日（金）

11：10～12：40/13：30～16：00

場所：西宮上ヶ原キャンパス中央芝生周辺

内容：一般学生に車いすの乗車体験・車いすをpush体験をしてもらう。障害を乗り越える体験から障がい者を理解してもらうという狙いがある。

来場者数：13名（一般人含む）

ボランティア week 2018

日程：2018年12月10日（月）～14日（金）

内容：

1. 展示「Let's!みるぼら2018」

場所：西宮上ヶ原大学図書館エントランス、西宮聖和ラーニングコモンズリプラ、神戸三田II号館102教室前・VI号館201教室前

内容：ヒューマン・サービス支援室紹介、学生COの活動紹介、第10回熊本地震現地ボランティア活動報告ポスター等

2. 学生CO企画「関学をジャック!!!」

場所：ヒューマン・サービス支援室、西宮上ヶ原キャンパス内掲示板、生協食堂等

内容：期間中キャンパス中を「ボランティアって何？」で埋め尽くす企画。

- ①ポスター掲示「ボランティアって何？」：あらゆるところに黄色いポスターを展示
- ②とんとんダッシュ！：一般学生に「ボランティアって何？」と突然聞き、ボランティアに対するイメージを聞く
- ③アタック150！：キャンパス内にいる学生にボランティアに関する2択を出題
- ④リアル脱出ゲーム！：謎を解き支援室にたどり着ければ景品をもらえる

3. 学内ボランティア団体向け勉強会「人を巻き込む企画の作り方」

日程：12月8日（土）10：00～13：00

場所：西宮上ヶ原キャンパス H号館305教室

講師：丸毛 幸太郎 氏（NPO法人Co.to.hana コミュニティデザイナー）

参加団体数：7団体（14名）



学生CO総会

日程：2018年12月22日（土）10：00～13：00

場所：西宮上ヶ原キャンパス 新学生会館会議室9

内容：イベント実行委員や部署の2018年度の振り返り、2019年度目標・活動計画の発表等

参加者数：支援室教職員 8名、学生CO 52名



3. 基礎研修

ヒューマン・サービス支援室では、活動の中核にある学生 CO がコーディネーターとして十分なスキルを発揮するために、研修を行っている。2018 年度は年度初めとなる春に基礎研修を行った。

基礎研修の目的は、新たに入ってきた学生 CO を主たる対象とした新人研修である。ここでは、ボランティアコーディネーターの重要性と基本的な知識およびヒューマン・サービス支援室との関係など学生 CO がヒューマン・サービス支援室で活動する上での基本的な事柄を理解することに主眼を置いた。

また、学生 CO の活動ではイベントごとに実行委員を組み、企画書作成から企画を実施するまで自分たちで取り組んでいくため、そのために企画の作り方やスケジュール管理の方法について実践的な例を挙げて行った。

<研修の趣旨>

- ・ヒューマン・サービス支援室の学生 CO として必要となるスキルを認識し、それを身につける。

そのために

- ① 学生 CO の基本を身につける
- ② ヒューマン・サービス支援室のルールを共有する

- ・学生 CO によって必要となる企画の立て方、進め方を身につける。

そのために

- ① 企画を立てる上で必要な考え方を理解する
- ② スケジュールの明確化と共有の重要性を知る

<研修内容>

- ① 基本的知識の確認

- ボランティアとは？
- 大学ボランティアセンターとは？

- ② 支援室について

- 学生 CO の位置づけと支援室との協働関係を確認する
- 支援室で活動する上での自分たちのルールを考える

- ③ ボランティアコーディネーター (CO) について

- コーディネートとは単なる情報提供ではなく、相手の新しい力を引き出す活動であることを確認する

- ④ コーディネートの role play

- 従来までのコーディネートと教科書的コーディネートの違いを確認し、自分たちにとってあるべきコーディネートの姿を考える

⑤ 企画について

- 企画をおこなうことは関西学院大学内に新しいボランティア文化を生み出すことであることを自覚し、それだからこそやってみたいということを形にしていくことが重要であることを確認
- 企画立案ワークショップを通じて、いかに企画していくかを実体験する



4. 来年度に向けて

文学部3年
沖本 祐基

2019年度 学生コーディネーター代表を務めさせていただきます、文学部3年の沖本祐基と申します。2019年度の現状と目標を書かせていただきます。

2019年度にてヒューマン・サービス支援室が設立し4年目を迎え、学生COは約70名の大所帯となり、毎日メンバー同士楽しく活動しています。また、年々ヒューマン・サービス支援室に訪れる学生の数も増えていき、ボランティアに対するニーズが高まってきていると感じています。そのような現状の中、ボランティアに対して、学生COの技術や知識が追いつかないことが課題であると考えています。上記に述べたように、関西学院大学ではボランティアに対する関心は増えていますが、一方で関心度と比例して年々増え続けているボランティア募集情報の数に知識面に対応しきれいていないという課題があり、コーディネート活動等に支障をきたしています。

このような課題を解決するためにも、2019年度の年間目標として、「ボラ充～ボランティアって何～」というスローガンを決めました。この年間目標は、学生COが改めて初心に戻り、ボランティア活動に参加し、ボランティアの「楽しさ」を見つけることを目標として決めました。ボランティアが数多くある中、少しずつ学生CO内でボランティアへ参加していき、コーディネート活動にて必要な知識や情報を身につけていきます。また、ヒューマン・サービス支援室は2016年度・2017年度は移行期、2018年度は組織としての基礎固めを行なった時期でありましたが、2019年度は「原点回帰」として、忘れかけている、コーディネーターの根源であるボランティアの意義を見つめ直すことも目標として、上記のスローガンを決めました。

2019年度は上記の目標を掲げ活動を行なっていきます。その上で、これまで培ってきた気持ちを忘れず、コーディネーターとしての自覚と責任を持ち、学生CO一同、関西学院大学のボランティアを盛り上げていく所存です。

記錄事項

リーフレット

ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室

2016年4月1日、関西学院大学におけるボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」が開設されました。支援室では、ボランティアをしたい学生に対してはボランティア情報や活動の紹介も、ボランティアをしている学生や学内関係者に対しては様々な活動の紹介を行います。

支援室では大学の「人」に 向け以下の内容を提供いたします。

大学内に向けて

大学全体に対して
● ボランティアに対する積極的の積極的リーフレット作成・配布

ボランティアをしたい学生に対して
● ボランティア活動の紹介（内部関係者からのチラシなど）
● ボランティア活動についての相談（心構えや不安など）

ボランティアをしている学生・団体に対して
● 活動情報の提供（ボランティアのチラシの発行など）
● 様々な活動についての相談（調査方法・活動情報提供など）
● 活動情報の提供（フォーラムの開催など）

大学外に向けて

ボランティアをしたい団体に対して
● 活動情報の提供（ボランティアのチラシの発行など）

※ 両者ともボランティアセンターにて活動の場が決定した場合は、随時その対応に向けた活動を行います。

関西学院大学
KANSUI GAKUIN UNIVERSITY

神戸三田キャンパスにて開室

2018年4月から、神戸三田キャンパスにてヒューマン・サービス支援室を開室しています。

まずは週2回、限られた時間の開室ではありますが、多くの学生が利用しています。

三田市内の活動や海外ボランティアなど様々な情報を紹介しているので、ぜひ支援室にお越しください。

また、三田キャンパスでは総合政策学部・理工学部の学生コーディネーターが活躍しています。三田でもボランティアを盛り上げるべく、教職員と一緒に活動していきます。



支援室の様子

ボランティア相談窓口



コーディネートの様子

三田の学生コーディネーター

ボランティアをやってみよう!

ボランティアって?

「特別な人がすること」ではありません。「ボランティア」として、自分自身から何かをしようとする、それがボランティアです。ボランティアは、自分自身から何かをしようとする、それがボランティアです。

ボランティアをしてみよう!

ボランティアをしてみよう! ボランティアをしてみよう!

学生コーディネーター

ボランティアを上げ、盛り上げる!

学生コーディネーターは、ボランティア活動の情報を提供し、学生へのボランティアに関する相談や学内のボランティア活動の推進、他大学のボランティア活動との連携など、様々な活動を行っています。

学生コーディネーターの活動

年間を通して様々なイベントを実施!

学生コーディネーターはボランティア活動の普及と活性化のため、様々なイベントを実施、実施しています。

イベント例

- ボランティアEXPO
- ボランティアフェア
- ボランティアアワード

学生コーディネーター募集しています!

支援室までお問い合わせください

ボランティアのコーディネーターを募集しています。ボランティアのイベントを企画してみたいなど、活動に興味があれば、ぜひ支援室までお問い合わせください。初心者でも経験豊富な先輩と学生コーディネーターとしてのスキルを身につけることができます。

詳しくは支援室のホームページをご覧ください。

開室について

日程: 毎週火曜日、木曜日

時間: 10:40~11:30 / 12:30~16:30

場所: II号館2階210号室

※開室日時や場所については、随時変更の可能性が
あります。

詳しくは支援室のTwitterをご覧ください。

Twitter QRコード

ニューズレター

神戸三田キャンパスでも開室中!

2018年4月から、神戸三田キャンパスでもヒューマン・サービス支援室を開設しました。まずは週に2回の開室ですが、春学期期間中は120名の学生が来室してくれました。

三田キャンパス所属の学生COと協働しながら、ボランティアに関わる様々なイベントも実施します。皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。



▲三田キャンパスの学生CO

ボランティアWeek

ヒューマン・サービス支援室では、学内の1大イベントとして「ボランティアWeek」を実施します。

学内にボランティアの呼びかけを、気軽に参加できるボランティアプログラムを実施し、図書館エントランスでボランティアにまつわる展示を出したり、開講のボランティアを盛り上げる期間です。再度は「おNewなわたし」をキャッチコピーとして、ボランティアに触れることで「後方・後方にできることってあるだ!」という発見をしてもらえるような企画を実施しました。



▲ボランティアWeekの様子

2017年度の企画

- 今年是我们がサントクロス! みんなが「暑くなると泳ぎ」を始めるので、ワカサギの子どもたちも泳ぎを始める。夏休みにヒューマン・サービス支援室で泳ぎの準備。5/26日、参加人数: 57名
- 展示「Let'sみるぼら」学生コーディネーターがまとめたボランティアや自分の活動を紹介。ボランティアの募集も無料です(プレゼント)
- 学内ボランティア団体向け相談会 学生コーディネーターが迷いや悩みについて、相談いたします。

ボランティアの相談や情報提供など、ボランティアに関わることも何でもご連絡ください!

ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原1-135 上ヶ原キャンパス正門左側1階
☎ 0798-54-6061 (内線) (受付時間: 9:00~18:00)
✉ kg.hsgo.info@kwansei.ac.jp (SNS: 支援室) 門番室
HP: http://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer

関西学院大学 ボランティア活動支援センター

ヒューマン・サービス支援室 News

Volunteer Activity Support Center "Human Service" Support Office

vol.1
2018.11.2



▲ボランティアを紹介している様子



▲関学が所属するボランティア団体がブース出演(ボランティアEXPO)



▲学生ボランティアコーディネーターの研修会の様子



▲支援室が主催する熊本県現地ボランティア



組織図: 関西学院大学ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室、学生ボランティアコーディネーター事務局、学生ボランティアネットワーク事務局、学生ボランティアネットワーク事務局、学生ボランティアネットワーク事務局、学生ボランティアネットワーク事務局

発足経緯、HSCからの年表

1995年 関学・法政・同志社連合(3月1日)
1996年 関西学院大学(4月1日)
1997年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
1998年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
1999年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2000年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2001年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2002年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2003年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2004年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2005年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2006年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2007年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2008年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2009年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2010年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2011年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2012年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2013年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2014年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2015年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2016年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2017年 学生ボランティア活動支援センター(4月)
2018年 学生ボランティア活動支援センター(4月)

ヒューマン・サービス支援室のヒート

センター長: 吉田 宏浩(法学部) 学長: 関 真貴(社会学部)
副センター長: 山本 隆(法学部) 副学長: 長谷川 政隆(社会学部)
学生コーディネーター: 成安 有希、岡秀和、岡秀和
事務担当: 山本 隆(法学部)、村上 芳秀(社会学部)

事務 関真貴 (社会学部)
学生ボランティア活動支援センターの発足から、この間、みなさんのご協力に支えられて、関西学院大学でボランティア活動の発展ができました。おかげで、後継者に引き継ぎました。ボランティア活動の発展は、みなさんのご協力のおかげです。これからも、みなさんのご協力をお願いします。

事務 成安有希 (社会学部)
ボランティア活動支援センターの発足から、この間、みなさんのご協力に支えられて、関西学院大学でボランティア活動の発展ができました。おかげで、後継者に引き継ぎました。ボランティア活動の発展は、みなさんのご協力のおかげです。これからも、みなさんのご協力をお願いします。

事務 岡秀和 (社会学部)
ボランティア活動支援センターの発足から、この間、みなさんのご協力に支えられて、関西学院大学でボランティア活動の発展ができました。おかげで、後継者に引き継ぎました。ボランティア活動の発展は、みなさんのご協力のおかげです。これからも、みなさんのご協力をお願いします。

学生ボランティアコーディネーター(学生CO)の活動

ヒューマン・サービス支援室のさまざまな活動は、学生コーディネーターと専任コーディネーターなどの教職員との連携によっておこなわれます。学生コーディネーターは、支援室の活動の中心的な部分を担っている大切な存在です。

Q1 学生COはどのような活動をしていますか?
学生COはボランティアの魅力を伝えるために、大きく分けて7つの活動をしています。学生が相談を受け、ボランティア情報を知ることができるボランティアコーディネーション、「春休み」ボランティアEXPO「ボランティアフェア」ボランティアWeekといったイベントです。

Q2 なぜ学生COになろうと思ったか?
先輩方から聞いたからです。新入生オリエンテーションで先輩方から聞いたからです。先輩方から聞いたからです。先輩方から聞いたからです。

Q3 代表としてのやりがいを感じていますか?
やりがいは、すべての活動に関わり、達成感が得られることです。また、つながりができる機会が多いので、幅広い視点からものごとを考察することも大きなやりがいの一つです。

Q4 自分自身にとってボランティアとはどのようなものですか?
ボランティアはつながりを生み出す手段です。ボランティアを通じて仲間、住民、他大学のボランティアネットワーク、他大学の学生など、ボランティアをしていないと出会えない人との出会いが私を成長させてくれました。

Q5 最後にメッセージをお願いします。
学生はボランティアを通じて、ボランティアをより身近に感じてもらえるように、これからも尽力します。学生COは大学教職員の支援を受けて初めて有資格者になることができます。今後とも、ご支援、ご協力をお願いします。

学生COのイベント紹介 春学期～夏休み

◆新入生オリエンテーションスピーチ(4/3～4/5日)
新入生オリエンテーションのスピーチで、学生COの活動を語り、新入生にボランティアの魅力を知ってもらう。ボランティアの魅力を知ってもらう。ボランティアの魅力を知ってもらう。

◆ボランティアEXPO(4/12～4/13日)
学生COが所属するボランティア団体のブース出演。1200名以上の学生が参加する。ボランティアの魅力を知ってもらう。ボランティアの魅力を知ってもらう。

◆ボランティアツアー(8/10～9/11日)
学生COが所属するボランティア団体のブース出演。1200名以上の学生が参加する。ボランティアの魅力を知ってもらう。ボランティアの魅力を知ってもらう。

ボランティア参加者の声

森 美月さん(人間福祉学部)
Q. ボランティアは自分の力を発揮できる場所ですか?
A. 自分が思っていた以上に、人のために何かをできる場所だと感じました。自分自身が、自分自身で何かをできる場所だと感じました。

宇野 航史さん(法学部)
Q. ボランティア活動を通じて、どのようなことを学びましたか?
A. 自分が思っていた以上に、人のために何かをできる場所だと感じました。自分自身が、自分自身で何かをできる場所だと感じました。

第9回参加学生作成情報誌〈聖和〉

栄養ノート
様々な学びを成長に

熊本地震現地ボランティアとは?

目的
被災地の現状を知り、熊本地震を次世代にも受け継いでいく、被災地でたくさんの人を笑顔にする。

活動内容
三回の事前打ち合わせを通してどのような活動をして行くかを明確にする。
被災地をめぐる被災状況や現状、課題、接し方など活動に関する情報や履録を調べる。
アクティビティや茶話会を通して、被災地の人々と交流し、たくさんお話をしたい思いを出発する。
どのような学びや思い出があったのか振り返り、自分たちができることは何かを考える。

ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061
✉ kg_hss@info.kwanso.ac.jp

<熊本の様子について>

熊本全体の街並みは、一旦、被災を思い起こせない状態にまで復旧していた。被害に遭った家は建て直すまでには至っていないが、更地にするところまでは工事が行われていた。車で熊本の前を走らせてもらおうと、空き地のような光景が多く見られた。家を建て直すには費用もかかるし、時間もかかるため、家を建て直すことを諦める人も多いのが現状のようだ。液状化現象によって浮いたマンホールや地面など、場所によっては何箇所か整備されずそのままの状態で見られるところもあった。また、土砂崩れが酷かった地域へ行くとも、工事はされているものもまだ時間が必要な状態であった。利用者が多い大きい道路や主要道路は整備され修復されていたが、それ以外の場所ではまだ工事が行われていないのが現状である。

<仮設住宅の様子>

いまだに仮設住宅で生活している人が多くいた。小さな子供や、大学生、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんも多種な人が暮らしていた。一層所に20以上の仮設住宅が建てられていた。軽装教育プレハブでできた原色の建物が特徴的だった。

仮設住宅の中には、四角二間のとても狭い個室にテレビや机を併用、冷蔵庫がしっかりと整備されていた。物置はあまり取れないが、防犯カメラはしっかりとできていた。子供からお年寄りまで年齢問わず三名で四畳二間を使っていた。中には花が好きで花をたくさん飾る人、今までに支度に来てくれた人が置いていた置物など見えた目は普通の家であった。しかし、壁は薄く隣人との距離は近いので騒音を防ぐ構造にはなっていない。また、仮設住宅の外では畑が植えられ、お花が綺麗に植えられていた。ほとんどの仮設住宅は廊下を開放して作られているため、緑豊かな景色が広がっていた。毎日運搬車が100以上の日用品や食品を運んで来ていて、注文を受ければ翌日には持ってきてくれるという。

被災地からの声

熊本地震現地ボランティアとは?

私は本山にある仮設住宅で、一人のおばあさんと熊本地震の当時のことについてお話しさせていただきました。

岡田：震災のことは今でも覚えていますか。

Aさん：はい、とても覚えてます。主人と二人暮らしで当時も一緒に家にいたのですが、とても強い揺れで危険を感じ、すぐに外へ出ました。そして避難所へ向かいました。

岡田：避難所は、どのような状態でしたか。

Aさん：たくさんの方が集まって、みんな家族や親戚と連絡を取り合ったり、落ちついた状態ではありませんでした。トイレに行くにもすごく並ぶし、匂いも、自衛生活に慣れていない人が集まるとたくさんいるという環境が慣れず、落ちつかない状態でした。

岡田：食料の面など困ったことはありませんでしたか。

Aさん：家族や親戚が心配してくれて、食料を持ってきてくれたりしたのもありますが、震災直後からたくさんボランティアの方々も支援に来てくれて、食料面で困ることはありませんでした。

次に、馬水東進仮設団地の方に仮設住宅での生活について伺いました。

石部：仮設住宅での生活はどうですか。

Bさん：避難所に比べてとても快適に暮らせます。しっかりと囲いに囲まれており、暖房冷暖房も多少は差控れているので安心して暮らせます。

石部：今の不安はないですか。

Bさん：今の不安は、新しい家を立てるのに経済的余裕がないこと、新しい土地が見つかったとしても建設業者さんが忙しかったため4ヶ月も工事が進まないまま持っている状態にあることです。

石部：今、期待していることはなんですか。

Bさん：今期待しているのは元の生活に戻ることです。ここに住んでいる人が少しずつ出て行き、先月は一ヶ月で三世帯くらい出て行きました。自分も早く新しい住まいに移り、今まで通りの生活がしたいです。でも今はやらなければならないものがたくさんあるのにもかかわらず、全額手についていない状態ですね。

ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061
✉ kg_hss@info.kwanso.ac.jp

体験を振り返って

岡田 唯佳
教育学部3年生
熊本地震現地ボランティアの参加は初めて、このボランティアに参加し、きっかけは、自分も人の助けになりたいという思いからでした。当時の状況、特に食料面、生活面に興味があったので今回のボランティアでは積極的に質問をしました。

石部 海
教育学部3年生
熊本地震現地ボランティアの参加は初めて、このボランティアに参加したきっかけは、異文化理解や国際理解に関するゼミに所属しており、ゼミの先輩からのボランティアの紹介を受けました。いろんな立場の人を理解したいという思いから参加を決めました。将来の期待や不安、仮設住宅での生活についてたくさん質問をしました。

今回の活動では、初めてのことばかりであったが、なかなかできない経験を沢山できて、とても勉強になった。一緒に参加した仲間を会め、現地の方々ともたくさん出会い、思慮以上に人と繋がる事ができた。これまで何度かこのボランティア活動に参加してきた人いれば、私のように始めて参加する人もいて、初対面の人との関わりが多く、楽しかった。また、「ボランティアとは何か?というところについても話し合い、人それぞれの考え方の違いについても触れる事ができた。ボランティアを通して一番感じたことは、人との出会いのかけがえのないものだと言うこと、これからもボランティア活動に参加したいと思った。ボランティアはとても良いことだと思う。たくさんの方に、ボランティアに挑戦してみてください。

今回の経験を通じて、支え合うことの大切さや「当たり前」のことばかりではないということや、被災地で話す人みんなが口を揃えていうのが「何もなくていい、今生きていることが幸せ」という言葉でした。日頃、こういった経験をしなくても、災害を当たり前のようには、安全で安心して食べ物を食べることが普通のことや、水を飲むことも、電気が使えないことも、太陽の光で水を温めて飲むことも、お風呂に入った、という話を聞くことと日々の履かきや蛇口から水が当たり前のように出ることに感謝しようと思った。

第9回参加学生作成情報誌〈三田〉

2018年6月11日(月) 週刊happy計画

熊本の週末ハッピー計画

被災地のために、自分たちに何かできることはないか

熊本の週末ハッピー計画

1. 熊本の現状を知る
2. 被災地を支援する
3. 被災地を訪問する

事前研修会 (5月18日)
・アイズプロジェクト紹介
・活動内容の大きなお話し

事前打ち合わせ1 (5月19日)
・熊本についてのアレ、ゼンターレ
・活動の概要と当日の注意事項(必ず決定)
・各項目の役割・役割の振り分け
・当日でできる活動の決定

事前打ち合わせ2 (5月23日)
・活動の準備
・活動の場所の確認
・活動のスケジュールの確認

事前打ち合わせ3 (5月27日)
・活動当日の注意事項
・必要なものの確認
・現地での活動の役割の確認

熊本までの道のり

▲事前打ち合わせの様子

▲アイズプロジェクトの様子

▲現地での活動の様子

2018年6月11日(月) 週刊happy計画

熊本現地ボランティアに参加した三田キャンパスメンバーの感想

総合経営学部1回生 濱田 希帆

熊本県にボランティア活動に参加した感想を述べている。被災地の現状やボランティアの意義について語っている。

▲現地から見たマンボウ歩

総合経営学部3回生 嶋本 弥生

熊本県にボランティア活動に参加した感想を述べている。被災地の現状やボランティアの意義について語っている。

▲立ち入り禁止の仮設入植

2018年6月11日(月) 週刊happy計画

現地での活動

総合経営学部2回生 鹿野 美紗

現地での活動の様子や感想を述べている。被災地の現状やボランティアの意義について語っている。

▲地震で倒れた壁

▲集金場での様子

▲子供を守る様子

▲物事を手伝う様子

▲仮設住宅の訪問

▲子供の面影を見る

▲集合写真

とりま、行ってみるばい熊本！

ボランティア活動支援センター
TEL: 096-34-0001
E: kg_hpa.info@kwansei.ac.jp

2018年6月11日(月) 週刊happy計画

仮設住宅での当日の流れ

午前9時 仮設住宅に到着

午前10時 ペアに分かれ、お宅訪問

正午 昼食休憩

午後1時 帰途

▲現地での事前ミーティング

▲ペンライトを習得の様子

▲ボランティアの講習

▲物事を手伝う様子

▲仮設住宅の訪問

▲子供の面影を見る

第10回参加学生作成ポスター

◎ 行ったからわかること



熊本地震発生から丸2年以上が経ちましたが、未だ仮設団地で暮らしている方はたくさんいます。私たちが実際に仮設団地を見て感じたのは、良い意味でも悪い意味でも人との距離が近いということです。子供の遊び場所が少なく、限られた範囲の中で遊ぶにも、一緒にいる大人(特にご年配の方々)が疲れてしまったり、どの世代もストレスは感じてしまうのだと思いました。しかし、悪いことだけではなく、この仮設団地によって、新しい繋がりができたというお話もありません。家の距離が近い分、窓から顔を出してお話をしたり、誘い合っただけで私たちのイベントにも来てくださった、良い出会いもたくさんあったことが分かりました。

月日が経つにつれて、メディア報道も少なくなりましたが熊本は復興したとらえていました。しかし、実際に現地へ足を運ぶことによって、その考えは間違っていることに気が付きました。今もなお熊本の復興は完全ではありません。街歩きをすると壊れたブロック塀などを見つけたことがありました。立て直しの費用、人手不足、優先度の違いが完全復興の障害になっているのでしょうか。同時に「復興」とは何だかもう考えさせられるのです。震災前の状況を再現すること? 新たなものをつくること? 何通り、何十通りも方法はあると感じました。



熊本ボランティアに行く前はもう復興しているというイメージを持っていましたが、実際に現場に行くと驚かされました。仮設団地に住む方はそれぞれ問題を抱えていました。私たちが何かできるのかを考えさせられました。

テレビではもう伝えられない熊本地震の被害は未だに残り、人々の心にも大きな傷が残っていると感じられました。震災というものの伝え方が変わった現在では、被災地に何ができてどうにか復興に考えるようになりました。

実際に現地に行って、自分の目で見たら、人と会ったりすることで分からないこと、伝わらないことがあるのだと感じました。今後自分たちができることを、積極的に聞かなくてはなりません。

実際に現地へ足を運んで「良い体験をした」だけに終わらず、「自分たちは何が出来るのか」ということを、これからも考えていきたいです。

私たちがしてきたこと

まちあるき



・熊本初日私たちは被害者である宮崎さんの話を聞きながら益城町の現状を実際に見てきました。この地震で壊れたものは何なのか、私たちが出来ることは何なのか、理直ごとく発表し、理解を深めました。

仮設住宅での企画

この災害ボランティアメンバーが力を入ってきたのは、各班で老若男女問わずに仮設住宅で楽しめることを実施するために馬水仮設団地、木山仮設団地、泉永仮設団地の3つに分かれ、ハンカチ作り、遊び、マニキュア、茶話会などを企画しました。実際に催してみると計画通りにはいかないほうが多い楽しめたものもありました。その中でどの仮設団地でも折り紙が人気でした。

仮設団地の方々とお話しの中で、被災当時の深い話を聞いたり、心を癒やせることでたくさんコミュニケーションをとることができ、私たちが仮設団地との間に「新しいつながり」ができました。しかし、子どもたちの場合はボランティアのあり方を考えさせられる活動でもありました。



こんな成長ができるから

ふれあいを通して



2年経った今、現地の人実際に会って、聞いてみないと気づかないことがあります。

震災当時の様子からこの2年でのどのように変化していったのか、どのように変わってしまったのかという話を聞くことができます。

それだけではなく、異なる世代の多くの人々とお話しすることで私たちの被災地や被災者という言葉の考え方や価値観が変わるかもしれません。そして、それは行かないと分かりません。

学年・学部を超えて



現地に赴いて、体験の中で感じたことや、思ったことを言葉として表す力が付き、意見の共有ができるため、1つの課題についてあらゆる角度から取り組むことができます。

新たに発見した疑問や、聞いてみたい質問などを思っているだけでなく、実際に尋ねてみることで、現地の人からリアルな声を聞くことができます。

また、先生方やほかの学生から意見を頂くことで、なぜそう考えたのか、次の行動に移すためにどうすればいいのか、といった自分自身の考えを深く過す力を身につけることができます。

活動の振り返り



実際に熊本に行くまでに、仮設住宅で行うイベントの企画の立案から準備までをします。活動日はランダムに決められ、学年や学部の壁をこえて様々な人の意見を取り入れながら企画を組み立てる力がつきます。

また、実際に熊本を訪れた際には、仮設住宅での企画の実施時や移動時間に現地の方々だけでなく、学生同士とのつながりを持つこともできます。

普段なかなか話す機会のない人との関係は貴重な体験であり、人脈を広げる第1歩になります。

これからも続けたいこと

思い続ける



熊本地震発生から2年が経ち、復興を見かける機会も減り、熊本地震を思い出すことが少なくなっているのではないのでしょうか。

私達は、活動の中で「忘れない」ことの大切さ学びました。現地に行くことができなくても、被災地のことを思い出し、被災地の名産品を購入するなど、協力できることはたくさんあります。また地震を他人事に感じるのではなく、今までの災害の教訓を活かし、被災地への関心をもち続ける必要があると思います。

活動を続ける



被災直後だけでなくも支援は必要です。がれき撤去など目に見える復興は進んでいても、心に傷を負った方はまだまだいると、活動を通して感じました。私たちは、行政の手が届きづらい「心のケア」を行っています。被災者と交流することで、仮設住宅で過ごした思い出が、少しでも楽しいものになればいい、活動を続けていきます。

また、学部も学年も違うメンバーと一緒に活動することで、新たな価値観に出会えるのもボランティアの魅力です。

発信し続ける



私たちが被災地にできることは、私たちが思っているよりも多いのかもしれないです。

熊本の現状や被害を知り、発信していくこともその一つです。例えば、この掲示を読んで、被災地について考える機会になったのではないのでしょうか。考えたこと、感じたことを、ぜひ友達や家族に伝えてみてください。

一人一人が被災地に思いを馳せ、できることを考えることが、大きな力になります。

だから私たちは、熊本地震現地ボランティアの活動を発信し続けていきます。

第12回参加学生作成ラジオ番組ポスター（4種）

関学生発!!熊本ラジオ

さくらFM78.7MHz

【注意】
諸事情により、
くまモンではありません。

熊本のみんなは元気だモン！
～熊本地震発生から3年を迎えて～

4月14日(日) 12:00～13:00
さくらFM 78.7MHz

ヒューマン・サービス支援室主催の「第11回熊本地震現地ボランティア」参加者が作るラジオ番組！熊本の魅力、地震から3年経った熊本の今がたっぷり詰まった1時間！上記QRコードを読み取ってお聴きください！2019年度も熊本ボランティアを応援します。ぜひ一緒に活動しましょう！

関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061 ✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

関西学院大学
ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061
✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

関学生が熊本県取材し、ラジオ番組を作った

日程
2019年4月14日 12:00～13:00

番組タイトル
熊本のみんなは元気だモン！
～熊本地震発生から3年を迎えて～

視聴はこちらから↓
さくらFM HP (<http://sakura-fm.co.jp/>)
を開いて以下をクリック

インターネットでさくらFMを聴くには
又はアプリからチェック→→→

ON AIR

関学生×ラジオ

日時：4月14日(日)
12:00～13:00
チャンネル：さくらFM78.7MHz

熊本地震から3年、第11回熊本地震現地ボランティアの参加者が熊本での活動を伝えていくためにラジオ番組を作りました！2019年度も熊本地震現地ボランティアの参加者を募集します！

関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061 ✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

熊本ってよかとこばい

関学生がつくったラジオ
熊本のみんなは元気だモン！
-熊本地震発生から三年を迎えて-

4月14日 12:00～13:00
さくらFMで検索！

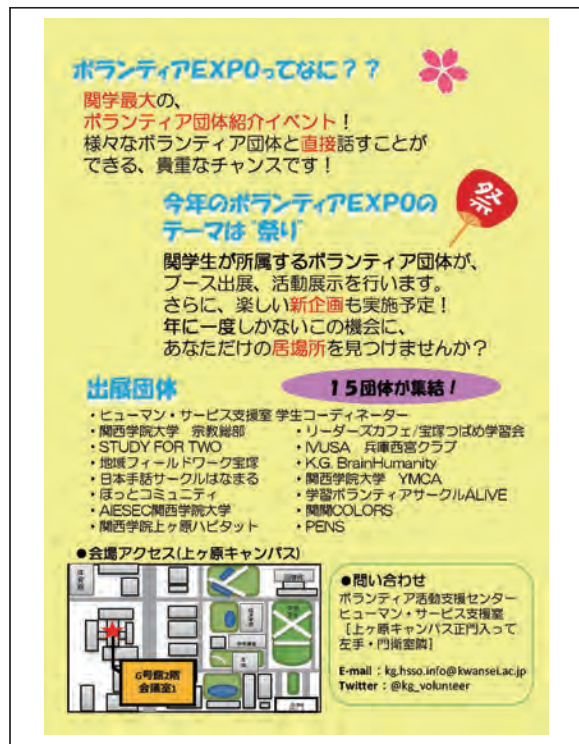
関西学院大学
ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
☎ 0798-54-6061
✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

学内主催イベント

ボランティア EXPO チラシ 表



ボランティア EXPO チラシ 裏



春ボラ表紙



出張ボラセンチラシ



ボラツアーチラシ 表



ボラツアーチラシ 裏



ボランティア EXPO チラシ 表



ボランティア EXPO チラシ 裏



ボランティア活動支援センター規程

第1条 関西学院大学に関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）を置く。

（目的）

第2条 支援センターは、ボランティア活動の支援に関する基本方針を策定する。

（業務）

第3条 支援センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 その他、前条の目的を達成するための業務
- 2 前項の事業を推進するために、支援センターにヒューマン・サービス支援室を置く。

（構成）

第4条 支援センターに次の構成員を置く。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員 3名（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパスから1名）

（センター長）

第5条 センター長は支援センターを代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 センター長は副学長の中から、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター副長）

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター副長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター委員）

第7条 センター委員はセンター長及びセンター副長を補佐する。

2 センター委員は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。

3 センター委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター委員が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター会議）

第8条 ボランティア活動の支援に関する基本方針を定め、それに基づいて、ボランティア活動を評価し管理するため、センター会議を置く。

2 センター会議は次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員
- 4 大学宗教主事
- 5 学長補佐 1名
- 6 学生活動支援機構長補佐 1名
- 7 大学事務統轄
- 8 大学課長
- 9 学長が必要と認めた者 若干名

3 センター会議は、副学長が招集し、議長となる。

4 センター会議が必要と認めたときは、センター会議の議を経てセンター会議委員以外の者を出席させることができる。

第9条 センター会議は、次の事項を協議する。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 支援センター予算・決算に関する事項
- 4 支援センター諸規程に関する事項
- 5 ヒューマン・サービス支援室の人事に関する事項

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、センター会議の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。

ヒューマン・サービス支援室規程

第1条 この規程は、関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）規程第3条第2項に基づき、ヒューマン・サービス支援室（以下「支援室」という）について定める。

（目的）

第2条 支援室は、ボランティア活動の支援に関する基本方針に基づき、学生等によるボランティア活動を支援し促進することを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（構成）

第4条 支援室に次の構成員を置く。

- 1 室長
- 2 副室長 3名
- 3 ボランティアコーディネータ
- 2 室長は、支援センター副長が兼ねる
- 3 副室長は、支援センター委員が兼ねる

（室長）

第5条 室長は支援室を代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 室長は本学専任教員の中から支援センター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（副室長）

第6条 副室長は室長を補佐する。室長に事故あるとき、又は室長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副室長はボランティアに関する知識を有する本学専任教員とし、支援室長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、副室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（ボランティアコーディネータ）

第7条 ボランティアの全学的な推進と調整を行うため、支援室にボランティアコーディネータを置く。

- 2 ボランティアコーディネータは室長が推薦した者

を、支援センター長が任命・委嘱する。

- 3 ボランティアコーディネータの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、ボランティアコーディネータが任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（支援室運営委員会）

第8条 支援室の円滑な運営を図るため、支援室運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

- 2 運営委員会は次の委員をもって講成する。

- 1 室長
- 2 副室長
- 3 学長補佐 1名
- 4 学生活動支援機構長補佐 1名
- 5 大学課長

- 3 運営委員会は、室長が招集し、議長となる。

- 4 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て運営委員以外の者を出席させることができる。

第9条 運営委員会は、次の事項を企画・立案し、支援センター会議に提案する。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（協議会）

第10条 室長は、関西学院大学で活動するボランティア団体の交流・協働を促進するため、室長、副室長による協議会を置き、開催する。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。

了解事項

ボランティアコーディネータは期限付契約職員とする。

ボランティア活動支援センター名簿

ボランティア活動支援センター長 富田 宏治（法学部教授・副学長）	ボランティア活動支援センター委員 武田 丈（人間福祉学部教授）
ボランティア活動支援センター副長 関 嘉寛（社会学部教授）	岩坂 二規（教育学部准教授） 照本 清峰（総合政策学部准教授）
	ボランティアコーディネーター 成安 有希 岡 秀和

ヒューマン・サービス支援室名簿

ヒューマン・サービス支援室長 関 嘉寛（社会学部教授）	ボランティアコーディネーター 成安 有希
ヒューマン・サービス支援室副室長 武田 丈（人間福祉学部教授） 岩坂 二規（教育学部准教授） 照本 清峰（総合政策学部准教授）	岡 秀和

2018年度 学生コーディネーター代表部名簿

代 表：	森本 敦史（文学部 3年）
副代表：	沖本 祐基（文学部 2年） 土屋 裕里（社会学部 2年）

2018 年度
関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室 活動報告書
2019 年 12 月 発行

関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL: 0798-54-6061 FAX: 0798-54-6161
E-mail: kg.hssso.info@kwansei.ac.jp
URL: https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/